

模擬授業のビデオ録画と自己評価を用いた試み Videoing Students' Model Lessons for Self-Evaluation

浅岡千利世 (獨協大学)
Asaoka Chitose (Dokkyo University)
casaka@dokkyo.ac.jp

I. はじめに

教育職員免許施行規則の改正に伴い介護体験実習の導入や実習期間の延長など、教育実習が大きく変わりつつある。JACET 第40回大会でも教育問題研究会が中等教育英語教育養成改革案を提案し、英語教員研修会が現職教員の研修実態と課題の報告をしている。また小学校から大学まで一貫した英語教育が今後一層重要となるに従い、英語教員の資質能力もますます問われる事になるであろう。

本発表では、前回発表者が行った研究発表「学生の観点からみた教育実習」で明らかになった、教育実習中に学生が実際に感じる問題や不安点をもとに、それらを少しでも解決すべく行った英語科教科教育法の授業を報告する。

II. 対象クラスの概要

1. 実践校・学年 : 獨協大学外国語学部英語学科 3年次
2. クラス・人数 : 英語教科教育法 II 1クラス 9名 (前期にIを履修済み)
後期 週一回 90分
3. テキスト : ホームページ使用 <http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0054/>

III. 授業の内容・方法

授業の目標: 外国語教育に関する様々な側面を理解した上で日本の教育現場という視点からこれからの英語教育を考える。

前期に扱う内容: 前期(2001年度 履修者20名)には、理論面を主に指導している。教材論、教授法、学習指導要領、教科書、評価、国際理解教育、ALT などについて説明・討論し、また、現職教員の研究授業のビデオ視聴、日本語での指導案作成も行っている。

1 学期の流れ:

1. 導入: 授業開始時に、自分のパブリックスピーカーとしての長所、短所および教育実習に向けての不安材料を自己分析させる。
2. 自己紹介スピーチ : 5分程度の英語での自己紹介スピーチを行い、peer

9月7日(土) 実践報告1 第3室(1135)

evaluation をもとに、自分の長所、短所を自己分析させる。

3. モデルレッスン：教員が作成したモデルレッスンプラン(英語)を9人に割り振り、ひとり5分程度の模擬授業を行う。peer evaluation をもとに、自分の長所、短所を自己分析させる。
4. 模擬授業 1：自分の作成したレッスンプラン(英語)の初めの20分の部分を実際に教える。この模擬授業からビデオ録画を導入する。授業内では peer evaluation を行う。
5. 教員と1対1の conference：授業外でビデオを見ながら教員とレッスンプランを見なおす。ビデオを参考に教員としての自分の長所、短所を自己分析する。
6. 模擬授業 2：見なおしたレッスンプランをもとに一人45分の授業を行う。この模擬授業もビデオ録画される。授業内では peer evaluation を行う。
7. 最終自己評価：peer 評価、教員評価、ビデオをもとに最終的な自己評価を行う。

授業の中ではその他に、classroom language, 実践パフォーマンスのテクニックなども時間・流れに応じて取り扱う。学生の自己評価はすべてレポートとして提出させる(なるべく英語で書くように指導)。

IV. 結 論

1. 教えること以前に自分が人前で話すこと、しかも英語で話すことに慣れていないことに気付くことができる。また、人前で話す力の上達には練習が必要であることにも気付くことができる。
2. 短い時間話すことから長時間話すことへ、またビデオの無い状態からビデオに撮られながら話すことへ徐々に移行することが大切である。
3. 教員からの一方的な批評だけではなく、お互いに、また自分で評価することによって、今まで気付いていなかったパブリックスピーカーとしての、また教員としての長所、短所に気付くことができる。
4. 実際に前に立って教えることで、今まで気付いていなかった点や準備不足になりがちな点に気付くのみならず、それを練り直してもう一度やる機会を与えられることによって教員としての自信をつけることができる。
5. 自分が教えている姿を後でビデオ観察することによって客観的に自己分析を行うことができる。

今回の試みでは学生はビデオによる自分の授業の観察、および他者評価・自己評価ともにおおむね肯定的にとらえていた。実際の教育実習へのこの授業の効果の研究、また事前指導、事後指導とも結びつけたプログラムへと発展させることが今後の課題である。